

11401重電機製造業における死傷災害100事例（-2017年）

No	年	月	発生 時	死傷災害事例	年 齢	事 故 の 型	起因物 (小)	労働 者規 模
1	2017	12	9~10	プレス機の修理で、油圧シリンダ内のエア抜き作業中、エア抜きを確認する際、油が出るエルボ部を右手で握り、シリンダ上部にあるソレノイドを手動でON・OFFさせ動作確認していた。シャフトが下がった際、シャフト座面とエルボに右手中指が挟まれた。	41	7	154	300~ 499
2	2017	11	9~ 10	加工機が並ぶ6棟円筒研削盤6L5Pにてメンテナンスのため、砥石軸駆動用ベルトの交換を実施した。動作確認として、砥石軸を回転させたところ、ベルトのバタつきを発見した。調査のため、一旦停止させ、ベルトを手で持って、手送りで砥石軸を回転させた。バタつきを見るため、速く回転させる必要があり、何度も手送りし、スピードを上げたところ、ベルトとプーリーの間で左人差し指を挟まれた。	32	7	121	100~ 299
3	2017	11	13~ 14	Bラインで、塗装製品（金属製の棒など4、5本）を約3m上方のレールに設置してあるハンガー（長さ180cm×幅10cm×厚さ5cm／滑車+塗装製品の重さ40~50kg）に吊るしてスライド移動する作業中、進行方向レールの切替操作を行った際、レールが正しくつながる前にハンガーを移動させてしまい、吊るした製品がレールのつなぎ目からハンガーごと落下した。咄嗟に落下したハンガーを避けようとしたが間に合わず頭をかばって覆った手の甲に当たり、右手甲部位と、同時に、その衝撃で頸椎を痛めて受傷したものである。	52	4	379	100~ 299
				塗装工場へ荷物を運搬し荷降ろし作業中、被災者は4トント				

4	2017	10	19～ 20	ラックの荷台で荷張りを解いた後、荷台のあおり（地上高156cm）に足をかけて地面に降りようとしたところ同僚があおりを下げようと固定具を外したため、足元がぐらつきバランスを崩して着地に失敗し転倒した。頭部とわき腹を打撲負傷した。	35	1	221	50～ 99
5	2017	10	11～ 12	就業場所の板金エリアで、レーザー加工機が停止してしまい、切り抜きを左手で上から押さえて落とそうとしたところ、切り抜きが下方へ動いたと同時に機械のセンターテーブルが移動し、切り抜きと左手がフィラーテーブルとセンターテーブルの間に挟まり、左手を負傷した。	35	7	159	300～ 499
6	2017	10	11～ 12	出張先の構内作業場にある操作盤の扉を開けて配線の調査をしていたところ、操作盤の脇を転がっていた直径2m重さ約2tの原反が操作盤の扉にあたり、扉を押し広げた状態で、その先にあるコンベアの手前で原反が停止した。原反を傷つけないよう扉を奥に開こうとして手を出した時に、コンベアにのった原反が動き出し、操作盤の扉と原反に両手を挟まれ負傷したものである。	46	7	224	100～ 299
7	2017	10	11～ 12	工場内作業場に於いて、配電盤（高さ2100mm幅800mm奥行600mm）をリフターを使用して床上40cm程吊り上げ配電盤の底部分に鉄板（約25kg）を取り付ける際バランスを崩し、鉄板を持った状態で上体を急激に捻って左膝から床に崩れ落ちた。上体を急激に捻った瞬間、左側腰部に激痛が走り、動けなくなってしまった。	51	19	611	50～ 99
8	2017	10	13～ 14	当社工場内にて、金属製品の板金、塗装作業中、研磨作業を終えて、脚立から降り、後ろ向きのまま数歩下がった時、パレットに足を引っ掛けてつまずき、背中より転倒した。転倒の際、両手をついたため両手首を負傷した。	66	2	379	30～ 49
				公団BOX枠組付け溶接工程において、台座に切断材料をセッ				

9	2017	8	12~ 13	トし、起動ボタンを押した。材料のセット状態を確認したとき、材料が乗り上げていた。以前、その状態で作業を続行し機械の故障をまねいたため、咄嗟に自動運転中にもかかわらず、機械の中に手を入れてしまった。その結果、クランプと材料の間に右手親指が挟まった。	25	7	169	—
10	2017	8	16~ 17	倉庫保管の為、ダンボール梱包された製品7箱をパレットに積み、荷崩れ防止用のラップ巻き作業を行っていたときに、隣のパレットと隙間が狭く、パレットの隙間に足を挟み、体勢を崩して転倒した。転倒時に両手でラップの芯を保持していたため、右手の拳で床をパンチする格好となり、右手中指、薬指を負傷した。倉庫は派遣先2名、派遣元2名の計4名で管理しているもので、倉庫の管理は事務所で行っている。	50	2	379	100~ 299
11	2017	7	11~12	工場にて、前処理作業場で、サンダ掛けをするため、品物（50~60kg程度の鉄の箱）を床から台へ移動させようとしゃがみ、品物を持ち上げようとした瞬間、腰のあたりにズキツとした痛みが発生した。痛みはあったが作業はできたので、無理せず終業まで続けた。その後痛みが引かなかった。	26	19	611	30~ 49
12	2017	7	16~17	高さ2mのキャビネットの組立作業場所で高さ75cmの足場台に乗り、キャビネットの拭き掃除をしている時にしゃがんだ状態で作業を終了し足場台の階段を使用せず、後ろ向きのまま直接床に降りようとした時に、バランスを崩して臀部から床に落下した。当日は、本人より少し痛みはあるが、様子を見るとのことで、翌日痛みが続いていた。	37	1	371	300~ 499
13	2017	7	17~18	当社第3工場にてシャフト加工の縦型ラック製造の段取り作業中、素手でラックダイスを交換・セットする際に、手を滑らせてダイスが落下しそうになったために、更に強く握ったところダイスの角で左手小指第2関節部を切創し屈曲腱を断	50	8	169	100~ 299

				裂した。				
14	2017	6	13～ 14	電気工事で、アイアンワーカーを使い銅バーを切断している時、カッターの上のシリンダー（ピストン）が下降して来て、指を挟まれ負傷した。	60	7	159	30～ 49
15	2017	6	17～ 18	製品検査作業場において、始動器盤の上部を脚立を使用して電線取り外し作業中、本来であれば、電源を遮断して作業を実施するところ、電源が入ったままの状態です盤内の通電箇所（銅帯部分）に両腕が接触し、440V電圧に感電して火傷を負い、感電ショックによる意識混濁となった。	25	13	352	300～ 499
16	2017	6	9～ 10	日勤開始後、床置きされた3台のコンデンサ（W150×D570×H400mm、重さ24kg）を手で持って、約5m先の台車に一人で運ぶ作業をしていたところ、2台目を持ち上げた瞬間に腰に痛みを感じ、一旦は下ろしたが持ち直して再度台車まで運び、痛みはあったが3台目も一人で運んだ。その後も痛みはあったが、デスクワークのため作業を継続し、昼休憩時に痛みが酷くて動けなくなったため、病院へ搬送された。本来の手順は装置の表示重量を確認し、20kgを超えている場合は必ず二人作業とするところ、重量を確認せず一人で運んだことが原因と思われる。	31	19	921	1000 ～ 9999
17	2017	6	10～ 11	モータ用歯切り加工にて、ワークをセットして起動後、ワークより奥側の切粉を取ろう（清掃）とし、後ろ側から左手を回して作業したところ、ビニール手袋が大きく、先端部分が歯切り設備（ボブ）に巻き込まれ、一緒に指も巻き込まれた。巻き込まれると同時に停止ボタンを押し、手を引き抜いたが、既に左手指四本を損傷していた。	37	7	159	500～ 999
				事業所内の第2工場にてワインダー（シート巻取機）上部のヒーター交換のため、高さ8m程度を登り、端子箱の配線作業をしていたところ、作業員に気付かず、別作業員がクレーン				

18	2017	6	11~ 12	を操作し、後方からクレーンが移動してきた。作業員に気づきクレーンを停止するも惰性で動いてしまい、作業員がクレーンとヒーターユニットに挟まれて、胸骨にひびが入る負傷を負った。	27	7	211	10~ 29
19	2017	4	11~ 12	モーター梱包作業後、パレットから一段下のパレットに荷物を移す際に一人で荷物を持ち上げたとき、斜めの角度で持ち上げてしまい、腰と右脇腹を痛めてしまった。	41	19	611	300~ 499
20	2017	4	14~ 15	配送先1にて2tトラックより荷下ろし作業中、荷台より荷物を引き出す際に荷物が段差に掛かり腰を捻る。配送先2にて、配送先2の従業員と共にアルミ鋳物製品が入った木箱（総重量約20kg、数量9個）の積込作業を行っている時、手持ちで距離約7mを移動中、腰を痛めた。	54	19	611	30~ 49
21	2017	3	11~12	オーロラビジョンの表示モジュール（約200kg）を移動させていた時、出荷用架台に取り付けられたキャスターが急に止まり、モジュールが移動方向へ転倒した。作業は2名で実施していたが、進行方向に対して左側スペースが狭かったため、モジュール左側の作業員が逃げ遅れて左膝を打撲し受傷した。（モジュール：W2,601mm、H2,193mm、D300mm、重さ約200kg）	39	6	611	500~ 999
22	2017	3	9~10	工場チップコンベア近くで、鉄箱の入った廃棄品を廃棄用鉄箱に移している際、鉄箱のバランスが崩れ、鉄箱が倒れ左足甲を挟まれ負傷した。	34	4	611	300~ 499
23	2017	3	9~10	当事業所内にて、フライス盤で真鍮板を加工中、刃物が右腕の服に引っ掛かり、巻き込まれ負傷した。	74	7	152	1~9
24	2017	3	16~17	工場の方から音がしたので行ってみると、被災者が転倒した状態で頭部から血を出して意識なく顔面が血の気なく仰向けになっていた。頬を2、3度叩いたが反応がないので、2人が	29	2	417	10~ 29

				交替で人工呼吸をし、頭部をタオル（ぬらした）3枚で止血した。その後、被災者の意識は戻った。				
25	2017	3	8~9	組織変更に伴う設計棟室内引っ越し作業にて、図面収納棚の引き出し（横幅900×奥行700×深さ70重量約4kg）を両手で押さえ運搬中、床に置いていたダンボール箱（300×300×400）に気付かず躓き転倒した。	67	2	611	300~ 499
26	2017	3	15~16	電動機分解作業において、固定子をクレーンで移動した後、踏み台を使用して点検口（高さ1430mm）から内部に入り、玉掛用ワイヤーを外した。内部から退出するため、点検口から前向きに踏み台の最上段（高さ900mm）に移ったときに踏み台が右側に傾き、バランスを崩して作業床に転落した。その際、踏み台横にあった単管足場パイプと被災者本人の身体の間左手を挟み、左手首を骨折した。踏み台が傾いた原因は、踏み台が40mmの段差のある場所に置かれており元々傾いていたことと、点検口が狭く足元を十分確認できなかったことが考えられる。	55	1	371	1~9
27	2017	3	15~16	電動機分解作業において、固定子をクレーンで移動した後、踏み台を使用して点検口（高さ1430mm）から内部に入り、玉掛用ワイヤーを外した。内部から退出するため、点検口から前向きに踏み台の最上段（高さ900mm）に移ったときに踏み台が右側に傾き、バランスを崩して作業床に転落した。その際、踏み台横にあった単管足場パイプと被災者本人の身体の間左手を挟み、左手首を骨折した。踏み台が傾いた原因は、踏み台が40mmの段差のある場所に置かれており元々傾いていたことと、点検口が狭く足元を十分確認できなかったことが考えられる。	55	1	371	100~ 299
				伝票の処理のため、2階設計室を出て1階の事務所向かった。伝票と資料の入ったクリアファイルのみを右手に持ち階				

28	2017	3	14~15	段の中央を降りていた際、2階から1階の途中の中間フロアまでの10段の階段の中間部分でつまずき、中間フロアに飛び降りる形となり前のめりで倒れ、左手で全体重を支える形になった。	34	1	413	300~ 499
29	2017	2	9~10	スポット加工エリアで金具スポット溶接加工をしていて同じ作業台で2種類の作業を実施した。バフ掛けの扉を移動する際ローラーが回転し打点位置に来てしまった。その為、右手親指爪部を創傷してしまった。	44	7	339	500~ 999
30	2017	2	13~14	紙加工場にて手袋をはめたまま、プレスボード（厚さ3.2mm×110mm×80mm）のベンディング作業中により丸めようと通常作業と異なり、手をローラー近くに持って行ってしまったところ、手袋の先がローラーに挟まり、指まで挟まれてしまった。	36	7	163	30~ 49
31	2017	1	18~ 19	段取り作業中に、分断プレスでフープ材を取り除こうとした時に、スイッチを手動にするのを忘れ、又安全扉を開けずに、切り込み口から左手を入れて取り除こうとしたため「ながらスイッチ」に体が触れてしまい、プレスが動き、金型に左手の指が挟まれてしまった。	48	7	154	100~ 299
32	2017	1	16~ 17	工場内の大型コアチーム作業場で、トランス製造に於ける鉄芯準備作業中、作業台に寝かせてある鉄芯を3人1組で起こそうとした際、起こした反動で床ずれし、支えようとした際に背部と腰部を痛めた。なお、痛める以前より、元々ある持病の腰痛に違和感があり、痛みもあった。	36	19	921	100~ 299
33	2016	12	12~ 13	工場内において、昼休みに休憩室に戻る際、工場の床で滑って転倒し右脇腹を強打。	27	2	379	1~9
34	2016	12	9~ 10	粉碎機のガイドリング交換後、音確認のためVベルトを回している時に、勢いがついてしまい、プーリーとベルトの間に指が挟まった。	48	7	121	30~ 49

35	2016	12	4~5	機械テーブル足場上で、製品のセンターリングを実施した。 センターリング後、床定盤鉄格子部に右足を重心として、機械テーブル上の左足を浮かせて降りようとした。床定盤鉄格子部の右足が、鉄格子に少し足が入った状態となり、バランスが崩れ転倒し、格子部つま先板で腰部を強打し、受傷した。	54	2	418	1000 ~ 9999
36	2016	12	14~ 15	土場でフォークリフトを移動中に、リフトの後部に乗せていた「とび」を取ろうとして、リフトを一旦止めて降りた時に、サイドブレーキをひかなかったのと、土場に少し勾配があった為、リフトの後ろに回った時にリフトが動き、左足を挟まれた。	64	7	222	1~9
37	2016	11	16~ 17	大型塗装ラインの乾燥炉上部の熱発生炉より異常音が発生した為、様子を見るために乾燥炉上に上り、点検移動中に乾燥炉補強金に足先があたり、着地地点がずれてしまい高さ約4mから落下し負傷した。	60	1	417	100~ 299
38	2016	11	13~ 14	出荷準備作業のため制御盤を台車で移動していたところ、台車のキャスターが工場内床下のエア配管の蓋に乗った際、蓋がずれてしまい制御盤のバランスが崩れて別の制御盤が載った台車の上に制御盤の一部が載るような形で倒れ、制御盤と床に出来た隙間に両足が挟まれ負傷した。	24	5	362	30~ 49
39	2016	9	10~ 11	場内で休憩時間に休憩室で椅子に座ろうとした時、椅子がないと思い込み、体勢を崩し重心を左足にかけてしまい、左足を捻り、左足半月板を断裂した。	51	19	417	50~ 99
40	2016	9	10~ 11	工場荷受エリアの着荷品保管スペースで、板金の受入検査をするために2段積みされていたダンボール箱の上段のダンボール箱を移動させようとした。人が通れる程度のスペースしかなかったため、膝を曲げずに腰を曲げて持ち上げたときに腰痛が発生した。	40	19	921	100~ 299

41	2016	8	10～ 11	工場の片付け中に手で金型を支えようとしたが支えられずに、金型が落下し右足打撲。	36	4	521	10～ 29
42	2016	7	19～ 20	プレス機の廃油処理を行う為、プレス機側操作盤でスタッカーを反転させた後、AUTOからHANDへ切り替えスタッカーを停止させた。プレス機オイルタンク横の廃油処理後、カットオフ下部の廃油処理を行っていた所、スタッカーが回転しプレス機とスタッカーの間に被災者の右胸が挟まれた。	33	7	154	30～ 49
43	2016	7	17～ 18	工場内で、製品を焼き付け乾燥後に乾燥炉から出している時に、吊り下げしているインデクサー部の鋳物部分が断裂し、製品と吊り下げしている治具と一緒に落下し、製品の向きを変える為支えていた右手に負荷がかかり負傷した。	50	4	362	10～ 29
44	2016	7	10～ 11	借りている倉庫でコンテナから荷降ろし中、木製パレット台をロープで引いていた時に木が割れて、はずみで右足首を直撃して骨折した。	55	19	522	30～ 49
45	2016	5	9～ 10	鉄芯加工場で鉄芯積み替え作業をしている時に、1枚あたり3.2kgの製品を6～7枚積層し、スキットからスキットへ移動させている時に腰を痛める。	35	19	521	10～ 29
46	2016	4	15～ 16	終業後、自家用車を駐車している付近で地面につまずき両膝を強打し、右ひざを骨折した。	58	2	417	50～ 99
47	2016	4	16～ 17	製缶大物組立職場において、ベアリングブラケットの組立を行うため、ジブクレーンとリフティングマグネットを使用して、重さ380kgの扇状の部材を吊上げて、定盤上に移動させていた。部材を定盤の上方40cmまで下げ、ベアリングブラケットの向きに扇形状を合わせるために左手を部材の縁に添えた時、部材がリフティングマグネットから外れ、定盤上に置いていた高さ調整用の鋼材の上に落下した。鋼材が崩れた際に添えていた左手指が挟まれた。	39	4	372	500～ 999

48	2016	4	16～ 17	工場内に於て、板厚16mmの鉄板にボール盤で穴を開ける作業中、手が滑って鉄板が左足に落下、安全靴を履いていたがつま先のカバーのない所に落ち負傷した。	36	4	521	1～9
49	2016	3	10～ 11	機械金属加工工場の塗装設備において、ハンガーに塗装製品の吊り下げ、取り外し作業を行っていた。設備の不具合等が発生したため、被災者は設備の裏にまわり、液の入った槽に体をのり上げてのぞき込む体勢をとっていた。設備を停止させていなかったため、ハンガーを吊り上げ搬送するためのキャリアが稼動し、キャリアと支柱との間に挟まれた。	55	7	169	50～ 99
50	2016	3	11～ 12	鉄板平物の面取り作業を終えた製品をコの字型鉄製台の上に置いていた際、荷重が過ぎて台が押しつぶされた状態になり、床と鉄材の間に、右足甲部が挟まれて負傷した。	29	5	521	30～ 49
51	2016	3	15～ 16	製缶工場の定盤上で横倒し溶接作業終了後、クレーンで筐体を立位とするため、筐体天井部の吊り金具であるアイボルト4本中2本にワイヤーフックを掛けた。しかし、2本中1本は、アイボルトリング内ではなく、リング外の根本の部分にフックを掛けていた。約0.8m吊り上げた時、根本部分に掛けていたフックがはずれ、クレーンを操作していた受傷者の左足安全靴上に落下し、左足指を骨折した。	33	4	372	50～ 99
52	2016	2	10～ 11	入出庫口の扉手前で入荷物の受け入れ作業を手伝っていた際に、入荷物を移動させようと台車に置かれた部材の入った箱を持ち上げたところ、足元に置かれていた別の台車に積んであった、薄紙に包まれた入荷物3個に接触し、くずれて左足の上に落ち、第一趾を強打し骨折した。	45	5	521	100～ 299
53	2016	2	7～8	始業前に喫煙室で喫煙後、灰皿をかたづけるため、吸殻入れにしゃがんで捨てた後に立ち上がったところ、柱の筋交に頭をぶつけた。	33	3	418	100～ 299
			16～	機械加工場で旋盤加工している時に、あやまって右人差し指				

54	2016	1	17	を機械にあて、被災した。	38	6	151	1～9
55	2016	1	18～ 19	倉庫出入口付近で段差に躓き、転倒を避けようとして左手を地面に着き受傷。	57	19	413	50～ 99
56	2016	1	9～ 10	開閉装置遮断器開発作業場において、550kv-GCB装置に輸送カバー取付け作業中、クレーン操作者が、550kv-GCB装置の後ろに置かれていたタンクを載せていた台のH鋼にのり、直接タンクに登ろうとして脚を滑らせ、後方に後ろ向きで落下した。その際、H鋼に左背中を強打した。	52	1	612	1000 ～ 9999
57	2015	12	14～ 15	中間試験機にて、手動でステータにサージ電圧を掛けていた。電圧を止めずにステータコアに手を置くと同時に、当日ゴムカバーが破れてしまった鰐口クリップを触り、数秒感電してしまった。	44	13	359	100～ 299
58	2015	12	19～ 20	走行中、交通事故のため渋滞しており、前方の車数台がUターンして引返すので、先を急ぐため、Uターンのため何度か切返している時、対向車と衝突し、負傷した。	44	17	231	50～ 99
59	2015	12	8～9	工場PLラインにて、クレーンによる鉄板の移動作業中、一人で鉄板を右手で押さえ、左手でクレーンの操作ボタンを押す時、向かって左側へ動かすところをボタン操作を誤り、右側へ動かしてしまった。その際に、鉄板を押さえていた右手首を鉄板と側に置いてあったキュービクルの間に挟んだ。	51	7	211	100～ 299
60	2015	11	9～ 10	事務所内給湯室から急ぎ足でデスクに戻ろうとした際に、事務所出入口に設置しているマットの縁に右足つま先が引っかかって体勢を崩し、前のめりになって、前方に転倒した。その際、左膝下部を床に強く打ち付けた。	55	2	379	100～ 299
61	2015	11	9～ 10	研磨作業を行うため、モールド品を運搬台車から作業台へ載せ換えていた。3台のうち、2台目を載せ換えた直後、腰に激痛が走り崩れ落ちた。	57	19	611	1000 ～ 9999

62	2015	11	8～9	<p>出社し、更衣室で着替えた後、立ちくらみを起こし、壁にもたれたが、そのまま意識を失い、前に倒れてしまった。</p>	48	2	921	300～ 499
63	2015	10	13～ 14	<p>塗装工場にて、塗装ブースに塗装するために製品を搬入していた。搬入が終わったので鉄製扉を閉めている時に誤って左手薬指を挟まれ負傷した。</p>	31	7	418	500～ 999
64	2015	9	13～ 14	<p>クレーンを使用し、約3tの自動車用試験機を組立中に、他者運転の別クレーンが衝突。その際、組立中の試験機が傾いた（動いた）のであわてて手を出して押さえようとして指をはさんだ。</p>	31	6	211	50～ 99
65	2015	7	8～9	<p>事務所内にて、朝礼終了後に突然気を失い前方へ倒れた際、顔面を備品棚の角部に強打し、その反動で後方へのけ反って転倒した。</p>	49	2	921	500～ 999
66	2015	7	10～ 11	<p>油タンク内の塗膜剥離のためミニブラスト作業を行っていた。完了後、剥離状況を確認。一部塗膜が残存しており、ブラストだけでは時間がかかるので溶剤（ラッカーシンナー）にて拭き取り作業を行った。作業中、タンク内に引き込んだ手元灯を床に置いた瞬間に、気化した可燃性ガスに引火し爆発した。</p>	36	16	512	10～ 29
67	2015	6	16～ 17	<p>エンジン整備のため、シリンダーカバー取り外し作業中、付属品エアバルブをかがんで取り外していた時、うずくまるような状態で意識を失ってしまった。</p>	73	90	921	10～ 29
68	2015	4	10～ 11	<p>駐車場で草むしりをしている最中ぬかるみに足を取られ右足からすべり手をつき右手首を骨折する。</p>	69	2	719	50～ 99
69	2015	3	13～ 14	<p>ダイキ作業（部材にボルトをはめ込んでいく）中、部材を両手で持ち上げ向きを替える為、片腕を上げひっくり返した時に痛みを感じる。</p>	35	19	521	100～ 299
				<p>板金工場では鋼板溶接接続後に行うハンマーによる歪み取り作</p>				

78	2014	11	13～ 14	生産部、第2工場内2期ラインのキューア炉搬出部において、太陽光パネル表層のガラスを保護するフィルムが剥がれかけていたのに気づき、移動中にもかかわらず、台車に乗ったラック越しに修正しようとしてしゃがんで作業したところ、走行してきた台車と柵の間に左膝を挟まれ負傷した。該当エリアは危険エリアとして立入禁止柵が設置されていたが、間隔が約15cmと広く、足が入る状況であった。	23	7	229	50～ 99
79	2014	11	12～ 13	昼休憩中、食堂のサンプルケース付近を歩いているとき転倒した。痛みが引かないため後日通院し、股関節骨折が判明した。（本人は、右手・右足が不自由）	39	2	417	500～ 999
80	2014	11	16～ 17	工場において資材用の小型パレットを持って平置きされていた製品を跨ごうとしたところ、製品につまずきバランスを崩し転倒した際、製品に左肩を強打し脱臼した。	29	2	611	100～ 299
81	2014	10	11～ 12	工場で電線に端子を圧着作業中に圧着機械に左手薬指を挟み骨折した。	24	7	169	10～ 29
82	2014	9	14～ 15	作業場内、文化パネル製品の塗装ラインにおいて、水切り乾燥炉から出てきた製品の上方部にマスキングをする為、脚立（高さ約40cm）上で作業をしていたところ、足を滑らせてしまい、腰から転落し地面で強打、負傷した。	24	1	371	10～ 29
83	2014	9	15～ 16	トラックの屋根の上（運転席の上）の踏み台で作業して降りた時に肩を捻り、その時は気付かず後片付けをしようとしたら、突然肩に異変を感じ、腕が上がらなくなった。	58	3	221	1～9
84	2014	9	13～ 14	溶接試験場において、溶接装置（アクリル板でレーザー溶接機を囲った装置）のノズル取外し作業をしていた作業員（被災者）が、溶接装置のアクリル板の開口部に上半身がもたれかかった状態で意識を失っているのを近くにいた作業員が発見した。救急車を要請し病院へ搬送した。状況を確認したところ、装置内の換気が悪く、酸素濃度が低いことが判明し	55	12	339	1～9

				た。				
85	2014	8	8～9	折り曲げ加工準備作業中、鉄板を移動式台車から折り曲げプレス作業台へ移動しようとしたところ、鉄板に油が残っていた為、鉄板を滑らせ右手親指と人差し指の間を裂傷した。	21	8	521	1～9
86	2014	7	10～11	工場内に於いて、キュービクル製作作業中、作業台から移動させる際に滑り落ち、品物（約50kg）と床の間に右手示指、中指を挟み負傷した。	67	4	379	10～29
87	2014	7	10～11	銅製ヒートパイプを修正加工している際、卓上の汎用旋盤で表面に付着した銀ろう（はみだし部）をヤスリで修正中、旋盤で製品を回転させながら仕上げていた。製品が長くて先端が少し振れていた為、次工程の検査員が製品を振れない様手でガイドしようとした際、パイプの端部が左中指に当たり、ゴム手袋が巻き込まれ骨折した。	60	7	151	50～99
88	2014	6	13～14	油圧プレスによるクラッチ解体作業を行っていたとき、治具のぐらつきを直す際に誤ってプレス上昇稼動を行った為、プレス上部と治具の間に中指を挟んだ。慌て手を引いた為、左手中指骨折及び、爪剥離を受傷した。	63	7	154	100～299
89	2014	6	11～12	8回2アウトまでの3分の2イニング投げたものの、3番目の打者に対して投げた後から、右足股関節に痛みが残っていた。翌日も登板する予定だったが、痛みが酷かったために投げる事ができなかった。大会が終わり3週間ほど経つが、痛みが変わらないため病院へ行くことにした。	25	19	921	1～9
90	2014	6	15～16	設備が復旧となり、切断刃の下に左手があったため、切断刃が回転して降下したときに指を切創した。	28	8	159	10～29
91	2014	4	4～5	製品を箱から取り出して加工機械にセットし加工後に製品の確認を前屈みでして首に痛みを生じた。	41	19	921	1～9
			9～	会社保養所にて敷地内清掃中、公道から建物内に上がる途				50～

92	2014	4	10	中、階段を踏み外し転倒した際に手をつき右手首を負傷した。	68	2	413	99
93	2014	3	17～ 18	工場内検査場において、住宅用分電盤（6 kg程度）の検査作業を行う際、台車（床上30cm）から仮置台（床上60cm）に住宅用分電盤を移そうと持ち上げた瞬間、腰に痛みと共に異常を感じた。	45	19	921	30～ 49
94	2014	3	12～ 13	昭和44年6月から昭和54年10月ごろまで原子炉機器の溶射作業において製品の温度を保つための保温材や断熱材にアスベストが含まれており、その保温材や断熱材を常時使用して作業を行っていた。	64	99	999	1～9
95	2014	2	17～ 18	高速カッターを左手で持っていて電源コンセントを入れたまま持ってしまったのでスイッチに手があたり、右手を刃に添えていたためカッターの刃で切った。	63	8	159	1～9
96	2014	1	9～ 10	半導体完成品（1260mm×430mm×240mm、重量195 kg）を樹脂製パレット上に立てた状態で置き、ハンドリフターで作業員2名が運搬していたところ、リフターの方向転換時に半導体完成品が転倒し、支えていた作業員が床面との間に右手指を挟まれて骨折した。	31	5	611	100～ 299
97	2014	1	14～ 15	コイル成型作業現場で、コイル（80 kg）を成型機で成型しジブクレーン使用で荷を吊り上げパレットまで移動する際、荷の吊り重心の確認が不十分であったため、荷が落下し足に当たり負傷したもの。安全靴は着用していた。	56	4	372	100～ 299
98	2013	12	14～ 15	配電盤Box部品の加工作業中、リベットを打つ位置がずれてしまったため、ドリルを使用し、リベットを外そうとしたところ、手元が滑り、リベットに添えていた手にドリルの刃先が当たり、負傷した。	20	8	152	50～ 99
99	2013	12	14～	材料を加工中、旋盤にて材料を加工中、刃物に過負荷が加わり、旋盤に取り付けた「補助チャック及びワーク」が外れ、	50	8	151	100～

			15	被災者の中指に当たった。				299
100	2013	10	11~ 12	移動台車に積載した状態の大型変圧器タンク側面の吹付塗装作業中、脚立から降りようとした際、足を踏み外し、2.5m下の床面に落下した。	37	1	371	50~ 99

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.html(職場のあんぜんサイト)

参考：[労働災害の分類の概要](#)

[各小業種における死傷災害100事例 \(-2017年\)](#)に戻る。